

基本理念

豊中市の中核病院として
「心温かな信頼される医療」
を提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
2. 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
3. 医療機関との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
4. 高齢化社会に対応する医療を推進します。
5. 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

病院だより

TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL NEWS

とよなか No.25

特集：外来化学療法センター

日本人の男性2人に1人、女性3人に1人が「がん」になる現代。これまで抗がん剤治療（化学療法）は、使用法や副作用の管理が難しいため入院して行うことが一般的でした。抗がん剤の使用・進化により、今では化学療法を通院で行うことが可能となりました。当院では、平成15年（2003年）4月から外来化学療法センターを開設し、治療を行っています。



● 抗がん剤治療（化学療法）とは

がんの特徴

- 細胞の増殖を繰り返し、正常な組織へも広がります。
- 血液やリンパの流れによりがんの発生部位より離れたところへも広がる場合があります。（転移）

がんの治療

- 手術
- 放射線療法
- 抗がん剤による化学療法

抗がん剤は、がんの増殖を抑え、死滅させる効果があります。

化学療法の利点

- 切除不能ながんを小さくすることにより切除可能となる場合があります。
- 生存期間の延長。 ● 手術後の再発抑制。
- QOLの向上（症状を和らげる）。

※分子標的治療：がんだけを標的に攻撃する新しいタイプの薬剤を使用した治療。

化学療法の副作用

抗がん剤は、血液の流れに乗って全身に運ばれ、がん細胞に直接あるいは間接的に作用します。この時、正常な細胞も傷つけてしまうためさまざまな副作用が発生します。（下痢、嘔吐、全身倦怠感、脱毛、発熱など。）最近では、分子標的治療※等の開発がすすみ、皮膚障害や間質性肺炎などにも注意が必要になってきています。

● 当院、外来化学療法センターの取り組み

外来化学療法の患者数は年々増加傾向となっています。ご利用の多くの患者さんが家事や仕事をしながら治療を続けています。多職種のスタッフが、チーム医療で少しでも快適な日常生活が送れるよう、患者さん個々の症状にあわせたサポートを行います。



- チーム医療（専任の看護師・薬剤師・医師）
個々に患者さんの治療内容とスケジュールを管理
- 抗がん剤
専用の設備・機器を使い、無菌操作での調製の実施
- 患者さん個々の症状に合わせた副作用緩和の実施
- 専用の治療室
患者さんのプライバシーに配慮